

検証データブック⑥

## 短期大学

君島 茂  
きみじま・しげる  
平安女学院短期大学

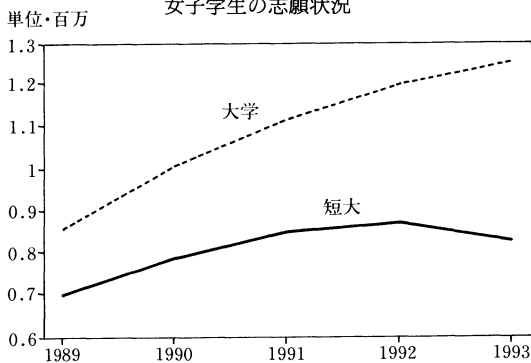
九三年度現在、短大総数は五百九十五、うち五百二（八四％）が私立である。

学生数は約五十三万人で、私立が四十九万人強（九二％）を占めている。

短大は、女子学生の「四年制志向」発足

女子学生の志願状況

当初は制度的に不安定な状態に置かれていたが、六四年度に恒久制度化がはかられて以来、順調に高等教育分野でのシェアを伸ばしてき



た。特に女子の占める割合は九二・五%と圧倒的であり（大学は三三%）、一般には女子のための高等教育機関とみなされている。しかし、近年、短大をめぐる情勢は変わってきている。

その最も顕著な変化が、高卒女子の「四年制志向」である。九三年度の女子の大学進学率は四三・四%（大学一九・〇%、短大二四・四%）と過去最高を記録したが、志願者数で見ると、大学が伸びているのに対して短大は対前年比五%の減となった。志願者比率をみても大学六に対し短大四と、四年制志向がいつそう強まっている。（表1）

こうした女子学生の進学動向は、社会構造の変化を反映したものであり、短大の将来を左右することはまちがいない。また、減少期をむかえて大学側が、外国人・社会人とともに女子学生を積極的に受け入れようとしていることも、これに拍車をかけている。

**短大の「生き残り」戦略**  
このような変化に抗して各短大では「生き残り」を賭けたリストラに取り組んでいる。

表1 女子の短大・大学進学率

	1990	1991	1992	1993
短大	22.2	23.1	23.5	24.4
大学	15.2	16.1	17.3	19.0

る。

その第一が、入試制度の改革である。推薦入試によって早く学生を獲得する方策だが、「青田買い」の批判がある。第二が、魅力のうすれた学科を廃止して時代に対応した学科に改編する試みである。既存の学科を情報・国際・福祉・医療技術などの学科に再編する取り組みが中心となっている。

第三は、学位取得につながる専攻科を設けて学生の減少に対応しようとする方策である。短大の専攻科は、九三年度現在、百六十一校二百九十専攻があるが、このうち学位授与機構認定は六十八である。九四年度にはさらに二十専攻が認定されている。

しかし、近年の最も顕著な動向は、短大を改組して大学へ転換を図ろうとする動きである。九三年度開設十一校のうち七校、九四年度十八校のうち十校が短大の改組による大学の新設であった。現在文

表2 大学・学部の新設と短大改組

開設年度	大学校	新設改組	学部校	設置改組
1991	6	3	13	1
1992	8	3	19	2
1993	11	7	14	1
1994	18	10	21	5

部省に打診のある大学設置計画は七十七校にのぼると言われるが、そのすべてが短大からの改組転換である。(表2)

### 「競争」と

### 「共生」の時代へ

二十一世紀は短大にとつてきびしい試練の時代となるであろう。小さくなる

パイをめぐる大学・短大間の学生競争戦は激烈になる。その意味で「競争」は避けられない。

しかし他方では、人々の高等教育に対する多様な要求に応える機関として、大学等と連携してパイを大きくする努力が必要となってくるであろう。

日本私立短大協会では、短大基準協会を発足させ短大教育の振興をはかろうとしている。短大教育全体の向上をはかることによつて社会からアクレディット(信用状)を得てはじめて短大の将来展望を切り開くことができる、との考えからである。

また、京都・大学センターが中心となつて取り組んでいる地域大学連合の構想は、各大学・短大の固有性を保持しつつ大学総体として社会的貢献を果たしていこうとする試みであり、大学・短大の「共生」を目指した新しい動きとして注目される。